



校長室だより 2022 度7月号

Be creative !



教育+ICT+国際協力でオーナーシップを育成する 育てたい力は世界に開かれた「ふくしまインド」

今年度、本校はパナソニック教育財団より、「ICT を効果的に活用し、学校の教育課題の改善に取り組む実践的研究」を推進する研究校として、その助成を受けることになりました。テーマは「GIGA と“ふくし”で開くカンボジアの教室/つながりながら、作りながら」です。

★生徒に育てたい力は

SDGs への理解を深める学習はどの学校でも進んでいます。しかし、私たちはこの SDGs の課題に対して、責任をもって課題解決に関わっていくことができる生徒を育てたいと考えています。そのためにも、ベースとなる力として「当事者意識=オーナーシップ」を生徒の中に作り出し、その力を軸にして、「グローバルシチズンシップ」の形成へとつなげていきます。このことは、本学園の建学の精神の育成にもつながります。世界に開かれた「ふくしまインド」に満ちた生徒を育てたいと考えています。



★具体的な取り組み

「知を求める ICT」という側面のみならず、その ICT により課題解決を図る「発信型 ICT スキル」を活用して、以下のことに取り組みます。

- ① カンボジアの小学校に算数教育のコンテンツを提供します。現地の先生のアドバイスも受けながら、現地のニーズに基づいたコンテンツの作成・提供に取り組みます。
- ② そのためにも、現地カンボジアの先生方とのオンラインインタビュー、児童たちの取り組みの様子の中継、児童たちの感想などのフィードバックにより、自分たちの取り組みを振り返り、その改善に取り組みます。
- ③ 双方のやり取りを中心とし、カンボジアの状況を把握し、理解することを通して、自らの SDGs に対するアクションをより豊かなものにグレードアップしていきます。
- ④ 本校主催の国際交流イベント「Global Meetup」を通して、実践をまとめ、発表し、自らの活動への認識を深め、「ふくしまインド」を育成する力とします。
- ⑤ タスクベースラーニングにより、互いのコミュニケーションツールとして、英語活用能力のアップにも取り組みます。



日本福祉大学国際福祉開発学部の影戸誠先生にもご指導をいただいています。

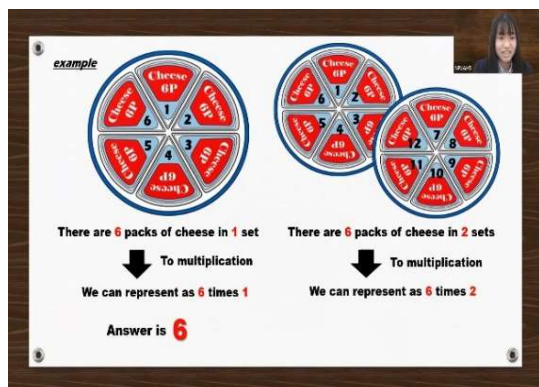
6月の授業において、日本福祉大学の影戸誠先生からこの学びの意味についてご指導・ご助言をいただきました。先生のお話は2つにまとめることができます。一つは「この学びを通して、カンボジアの状況をきちんと理解しよう」ということです。「カンボジアの子どもたちは高等教育に進めば進むほど、学校に行けなくなってしまう。小学生も18%の子どもたちがまともに学校には行けていない。電

灯の無い環境の中で、若い先生方は一生懸命苦闘しながら、子どもたちにより教育を与えたいと奮闘をしている。君たちが日本から子どもたちに語りかけることは、君たちが想像する以上に、彼らを励まし、彼らの将来への生きる意欲を育てている。自分たちのために一緒に考え、行動してくれる人が世界にいるのだという実感を彼らが持つことは、この先、彼らが何らかの事情で学校に行けなくなっても、正しく生きていこうという意欲を生み出すことにつながっていくのだ。」と先生は語ります。

もう一つは日本の高校生の成長にとって、どんな意味合いを持つ学びなのかということです。発展途上国に対して、日本の教育を提供する「Edu-port」に取り組む影戸先生は、日本の教育には、他国にはない優れた点があるのだと言います。また、その教育が作り出す日本の状況にも、優れた点がたくさんあると言います。その中で学び、自分自身の力を蓄えてきた日本人として、「ぜひ、自分たちの学びを、自分自身の小さな幸せのみに生かすのではなく、社会の発展に生かしてほしいし、生かすことができるのだという実感を君たちに持ってほしい。カンボジアの先生方はどう子どもたちに教えていいのかわからず、模索しながら子どもを育て、そのことにより自分たちの国を成長させたいと強く願っている。そのために英語も学び、他国から情報を得て、自分たちの力量をアップさせたいと強く願っている。君たち自身の学びは、『World Peace』に貢献する力を持っている。『自分の確かな成長を作り出す新たな学びを創造するのだ』、ぜひ、そんな意気込みで取り組んでほしい。」影戸先生の熱い思いがオンラインを通して生徒たちに伝えられました。



★昨年度の取り組みから学び、今年度の取り組みへつなぐ



昨年度の3年生グローバル英語コースの皆さんは、この取り組みに先駆けて「カンボジアの子どもたちに九九と繰り上がりのある足し算の筆算を教えよう」といくつかの教育コンテンツを作成し、自分たちの英語のプレゼンと合わせて、カンボジアの先生方に提供をしました。今年度のテーマは「三角形の面積の求め方」です。さあ、知恵を絞って考えよう。カンボジアの子どもたちが待っていますよ。

★今月の言葉★

野球日本代表(侍ジャパン) 栗山 英樹 監督

泣いちゃだめだ。今じゃない。まだ終わっていない。



「この夏も応援したい君がいる」をキャッチフレーズに、今年も全国高校野球選手権の予選が始まる。栗山監督が自身の体験を振り返り、全国の野球に青春をかける高校生にメッセージを送った。

高3最後の夏、自信をもって臨んだ大会四回戦、都立東大和高校に栗山氏はコールド負けをする。六回、負けを予感し、マウンドを降りて、ショートに回った時、情けなくて涙が止まらなかった。まだ試合は終わっていない。でも泣いた時点で自分の中で試合を終わらせてしまっていた。年齢を重ねて気づいた。「能力とか才能とか、そんなものは実はたいしたことではなくて、世の中で頑張って自分のやりたいことをやっている人は、失敗をいっぱいしても、最後まで、成功するまでやりきるといだけの話だ。」「地方大会でも、甲子園でも、試合の終盤、ベンチで泣いている選手がいる。わかるんです。でも泣いちゃだめだ。今じゃない。まだ、終わっていない。」